

研修報告書 No.11

所 属： 昭和医科大学病院

氏 名： 森山瑛文

研修先： 土佐市民病院

土佐市民病院にて 2025 年 7 月 1 日から 7 月 31 日まで地域医療研修を行いました。私は大学の卒業旅行で一度四国を訪れたことがあり、旅行も併せて研修を楽しみにしていました。1 か月間レンタカーを借りましたので土日祝日は高知県の東は安芸・室戸エリアまで、西は四万十・足摺エリアまで、北は嶺北エリアまで遠出することができ、高知県ならではの特産品、自然、文化に多く触れることができました。初めの 2 週間は雲一つなく快晴で、ひろめ市場に行き海鮮丼を食べたり、歴史のある街並みを散策したり、桂浜の景色をじっくり堪能することができました。気候に関し四国地方は雨が少ない印象がありましたが、7 月中旬は台風、梅雨の季節にちょうどぶつかり線状降水帯が発生するなど非常に降水量の多い時期であり、ずぶ濡れになって車を運転することもありました。7 月下旬は天気が回復し、そうだ山温泉、大正市場でカツオのたたきをたらふく食べたり、さらには足摺岬や柏島まで足を伸ばし、透き通った綺麗な海を眺めたりと雄大な自然を観察することができました。私は一人で外食することが趣味であり、退勤後は毎日病院周辺の居酒屋に行き、新鮮で分厚いマグロの刺身や親鳥の焼き、馬刺し、うつぼのから揚げ、鍋焼きラーメンなどを食べたり、カラオケバーで土佐市民の方々とお酒を飲みながらお話をしたりしました。高知県の方々は非常に温かく私を迎え入れてくださり、大変充実した毎日を過ごすことができました。

地域医療研修では内科と外科外来の診察、小児科外来等の見学を行いました。他にも私は専門研修を産婦人科もしくは消化器内科で悩んでいましたので、自主的に内視鏡検査の見学や外科手術の助手に入ったりするなど、自由に病院内を動いていました。研修中は主に自分の内科外来を受け持ちました。自分の病院では一般外来は基本的には研修医が行うことはなく、見学のみ行っていました。初めは分からないこと、不安なことがたくさんありましたが、上級医や看護師さんが優しく丁寧に教えてくださり、安心して自信をもって診察することができました。私は大学病院での研修しか経験がなく、病気を疑ったらすべての検査を行うのが普段の診療の仕方でしたので、市民病院ではどこまで検査を行うのか、しっかりと疾患を絞って必要な検査を行う思考力、判断力が欠けていました。しかし、研修最後にはしっかりと鑑別疾患も考え、自分で病気に対するアセスメントも行えるようになりました。平日の大学病院では患者さんは風邪症状で受診することが少なかったため、症状の精査目的に「まずは検査」に走りがちでした。しかし、患者さんに対して詳しく医療面接と身体診察を行う中で異常を見つけ、それに対して少ない医療資源の中で必要な検査を実施する、また、他の緊急性疾患を除外する癖をつけることができるようになったことは一番の成長でした。

急性上気道症状に対し「風邪っぽい」のか「風邪っぽくない」のかの判断がある程度できるようになったことも成長の一つでした。

研修の中で一番印象的だったことは、SFTS に私が主担当医として関わることができたことです。初めは発熱、倦怠感を主訴に来院されましたが様々な検査をしても異常がなく、最終的に診断がついた事例でした。医師国家試験では見たことがあるものの実際に西日本特有の疾患に出会ったのは非常に貴重な経験でした。大学病院では研修医が基本的に主担当医となることはなく、本件では重症化リスクが高かったこともあり大きな責任感を初めて感じました。

今回の地域医療研修では、関東地方と異なる地域の医療体制を垣間見ることができました。医療における地域の特性が自分の経験してきたものと異なり、非常に勉強になることが多かった1か月でした。